

事 項	りんご「王林」のビターピット発生の多少には満開後の積算気温の影響が大きい		
ね ら い	ビターピットの発生は年による変動が大きく、従来から気象要因との関連が指摘されていたが、これまで明らかなデータはなかった。今回、「王林」のビターピット発生と気象との関係を解析した結果、ビターピット発生の多少は満開後を基準とした積算気温との相関が高く、果実生育期の気温の影響が大きいことが明らかとなったので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	1 「王林」のビターピット発生は、満開後11日～140日（平年：5月12日～9月29日）の積算気温（平均気温の積算値）との相関が高く、この期間の積算気温が高いほど発生が多い。		
期待される効果	長期予報などから気象的にビターピットの多発が懸念される場合は、カルシウム剤散布を徹底するなど良品生産上の注意を喚起することができる。		
利用上の注意事項	ビターピットの発生は、気象要因とともに樹勢が強い樹や大玉の果実で発生が多いので、例年発生のみられる場合は、カルシウム剤散布の他、窒素施用量を減らす、強い剪定を行わない、摘果を強めに行わないなど、樹勢を落ち着かせ、大玉にならないような栽培管理を行う。		
担 当 部 署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター環境保全部 (坂本 清、谷川法聖)	対 象 地 域	県下全域
発表文献等	平成10、12年度 青森県りんご試験場試験研究成績概要集 平成17年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集 平成18年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 各期間の積算気温(平均気温の積算値)と収穫時のビターピット発生率の相関係数

(昭和63～平成12年 青森りんご試)

満開後日数	～70	～80	～90	～100	～110	～120	～130	～140	～150	～160	～170
1～	0.579	0.787*	0.851*	0.902**	0.919**	0.913**	0.929**	0.932**	0.918**	0.906**	0.906**
11～		0.817*	0.872*	0.917**	0.933**	0.920**	0.933**	0.935**	0.921**	0.905**	0.904**
21～			0.839*	0.902**	0.915**	0.906**	0.924**	0.927**	0.914**	0.896**	0.891**
31～				0.909**	0.922**	0.910**	0.925**	0.928**	0.914**	0.896**	0.891**
41～					0.925**	0.900**	0.909**	0.909**	0.894**	0.869*	0.859*
51～						0.876**	0.886**	0.888**	0.874**	0.843*	0.831*
61～							0.859*	0.863*	0.852*	0.818*	0.805*
71～								0.808*	0.803*	0.765*	0.750
81～									0.749	0.713	0.702
91～										0.722	0.701
101～											0.692

(注)ビターピット発生率はりんご試の王林/マルハ(N2ほ場)の調査値を使用。\*は5%、\*\*は1%水準で有意差があることを示す。

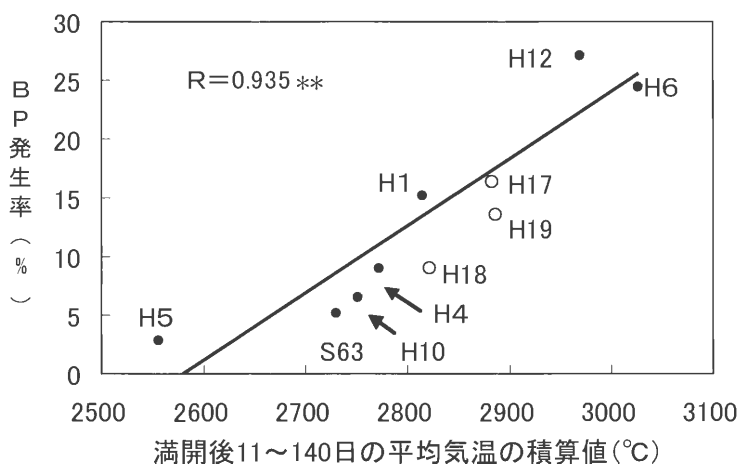


図1 満開後11～140日の積算気温と王林のビターピット発生率との関係

(昭和63～平成12年 青森りんご試、平成17年 青森農林総研りんご試、平成18～19年 青森農林総研)

(注) ビターピット発生率については、●はりんご試N2圃場の王林/マルハ、○はりんご試B8-3圃場の王林/M.26(マルハ付き)の調査値。相関係数及び回帰直線は、N2圃場の調査値(N=7)で算出した。